読響 Yomiuri Nippon Symphony Orchestra

桂冠指揮者
シルヴァン・カンブルラン
“色彩の魔術師”が東欧の20世紀音楽を鮮やかに描く

©Marco Borggreve

ピアノ
ピエール=ロラン・エマール
リゲティ・イヤーの締めくくりに“真打”が超難曲に挑む

これが、あなたと私の生きざまです。

ヤナーチェク：
バラード「ヴァイオリン弾きの子供」

リゲティ：
ピアノ協奏曲〈生誕100年記念〉

ヤナーチェク：
序曲「嫉妬」

ルトスワフスキ：
管弦楽のための協奏曲

読売日本交響楽団 第633回 定期演奏会
2023 12.5(火) 19:00
サントリーホール
S¥8,000　A¥7,000
B¥6,000　C¥4,500

読響チケットセンター
0570-00-4390(10時-18時・年中無休)

主催：読売新聞社、日本テレビ放送網
読売テレビ、読売日本交響楽団
助成：文化庁 文化庁文化芸術振興費補助金
(舞台芸術等総合支援事業(創造団体支援))
独立行政法人日本芸術文化振興会
協力：アフラック生命保険株式会社

SYLVAIN CAMBRELING conductor Laureate
PIERRE-LAURENT AIMARD Piano JANÁČEK Ballad for orchestra “The Fiddler's child”
LIGETI Piano Concerto JANÁČEK Overture “Žárlivost” LUTOSŁAWSKI Concerto for orchestra
YNSO Subscription Concert No. 633 Tue. 5 Dec. 2023, 19:00 Suntory Hall

カンブルラン&エマール、東欧の前衛がスパークする！

生物と同じように、音楽もまた自らを繋ぐために蠢いている。あらゆる可能性を探り、新しさと美しさを更新している。20世紀、戦争により世界は激動した。そんな中で、音楽は〝先端〟を目指してもがき続けた。東欧も同様だ。アイデンティティに揺れ動き、格闘し、創造された鮮烈なイメージをぜひ感じていただきたい。

シルヴァン・カンブルラン 桂冠指揮者

色彩豊かな音楽作りで、読響を世界のトップレベルへと導いた名匠。1948年フランス・アミアン生まれ。2010年から9年間、読響常任指揮者を務め、古典から現代まで幅広いレパートリーを演奏し、高い評価を得た。19年4月から桂冠指揮者の任にある。バーデンバーデン&フライブルクSWR響の首席指揮者、ベルギー王立モネ歌劇場、フランクフルト歌劇場、シュトゥットガルト歌劇場の音楽総監督などを歴任。現在、ハンブルク響の首席指揮者、クラングフォルム・ウィーンの名誉首席客演指揮者を務めている。読響とは17年11月にメシアン「アッシジの聖フランチェスコ」でサントリー音楽賞、22年10月にヴァレーズ「アルカナ」などで文化庁芸術祭大賞を受賞した。

12月5日《定期演奏会》には、桂冠指揮者カンブルランが登場する。昨年10月にヴァレーズ「アルカナ」などで鮮烈な演奏を繰り広げ、文化庁芸術祭の大賞にも輝いた。今回のテーマは、東欧の20世紀。今年、生誕100年のリゲティと生誕110年のルトスワフスキ、二人の傑作を軸に、20世紀音楽を切り拓いたヤナーチェクの二つの作品を取り上げる。カンブルランは過去に読響でバルトーク、シマノフスキ、リゲティ、ペンデレツキ作品などを指揮しており、その流れを汲むプログラミングと言えるだろう。

メインとして演奏するのはルトスワフスキの代表作、1954年に初演された「管弦楽のための協奏曲」。1943年にバルトークが書いた同名の曲に着想を得て、ポーランドの民俗音楽を組み込み、更にオーケストラのヴィルトゥオージティを高めた独創的な作品。冒頭からティンパニが重々しく刻まれる緊張感溢れる曲で、強烈なリズムの連打や音色の多彩さも特徴的だ。ストラヴィンスキーらの影響も受けながら、熱く煮えたぎった血が噴き出さんばかりのエネルギーに満ちている。カンブルランのタクトは、作品の持つ前衛性を露わにするだろう。

前半の聴きものは、現代作品を得意とする世界最高峰のピアニスト、エマールが独奏を務めるリゲティのピアノ協奏曲だ。1980年代後半に書かれたこの曲は、独奏とオーケストラが異なる拍子で進んでユニークな響きとリズムの弾力性を備えた第1楽章から、ピアノと管弦楽が同化する第2楽章、ピアノの早いパルスが幻想性を生む第3楽章、まとまりとズレを繰り返す音が渦のように積み重なる第4楽章、エマールが「カーチェイス」と表すほどにスリリングに精神錯乱を引き起こして突如終わる第5楽章まで、一瞬たりとも目が離せない密度の濃い作品だ。欧州の現代音楽界を牽引してきた二人、カンブルランとエマールによるキレッキレのパフォーマンスに期待したい。

この二曲と共に演奏するのは、ヤナーチェクの二作品。音楽的に優れているにもかかわらず、演奏機会の少ない、知られざる作品を選ぶのは如何にもカンブルランらしい。「ヴァイオリン弾きの子供」は、1912年に詩人チェフの同名の詩を基に作られた曲で、もの悲しいオペラのようなヤナーチェクの独自の手法が表れている。序曲「嫉妬」は当初、歌劇「イェヌーファ」の序曲として書いたものだったが、自己完結的でインパクトが強いためにオペラの導入としては適さないと作曲家自身が判断したとされている。僅か5分程度の長さながら、物語の情景が生き生きと浮かび上がるような作品で、オペラにも長けたカンブルランの面目躍如となるだろう。

ピエール＝ロラン・エマール ピアノ

従来の境界を飛び越えて世界中でクリエイティヴな活動を続けている巨匠。メシアン国際コンクール優勝。10代でアンサンブル・アンテルコンタンポランの専属ピアニストに抜擢された。カーター、リゲティ、クルタークら作曲家と密接な関係を築いている。ラトル、サロネン、ナガノらの指揮で、ベルリン・フィル、ロイヤル・コンセルトヘボウ管、ロンドン響、シカゴ響などと共演。2008年から16年までオールドバラ音楽祭の芸術監督を務めた。ワーナー、グラモフォン、ペンタトーンなどと数多くの録音を行い、国際的な賞を多数受賞。今年はリゲティ作品を世界各地で演奏。リゲティのピアノ協奏曲は、ロンドンやアムステルダムに続き、今回東京でも披露する。

©Marco Borggreve

読売日本交響楽団 第633回 定期演奏会

2023年12月5日〈火〉19時開演

サントリーホール 東京都港区赤坂1-13-1 Tel. 03-3505-1001

S ¥8,000／A ¥7,000／B ¥6,000／C ¥4,500

●東京メトロ南北線「六本木一丁目」駅（3番出口）より徒歩約5分 ●東京メトロ銀座線「溜池山王」駅（13番出口）より徒歩約7分

学生券 学生の方は、開演15分前に残席がある場合、¥2,000で入場できます（要学生証／25歳以下）。ただし席を選ぶことはできません。開演1時間前から受付で整理券を配布します。 ■都合により曲目、出演者等が一部変更される場合もございます。 ■ご購入いただいたチケットは、公演が中止になった場合以外でのキャンセル・払い戻しはできません。あらかじめご了承ください。 ■未就学児のご入場は、固くお断りいたします。

読響チケットセンター 0570-00-4390
＊10時−18時・年中無休

読響チケットWEB https://yomikyo.pia.jp/
＊座席選択可／チケット郵送料無料

プレイガイド	サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017	読響ホームページ	https://yomikyo.or.jp/